

普及活動検討会実施報告書

(大崎) 農業改良普及センター

実施月日：令和6年9月4日

実施場所：大崎合同庁舎

1 検討内容

No	検討項目
	【現地検討】 (1) プロジェクト課題の現地検討 「子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立」 (課題 No. 4) 検討会場へ移動 【活動検討】 (1) 令和6年度普及指導計画の概要 (2) 令和6年度プロジェクト課題の進捗状況 (3) 意見交換

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果 (コメント、評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
検討項目 No. 1 「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」	4. 2	<ul style="list-style-type: none">農事組合法人は運営が大変。経営指導を長期にできることが大事ではないか。しっかり何度も話し合いを実施し、将来のイメージを固めているところが良かった。法人化することで後継者を育成して農業が発展していけば良いと思う。清水地区の法人化に向けて丁寧に生産者へ説明されていて素晴らしい。ただ説明するだけでなく、ワークショップを一緒に取り組んでいることもよいと思う。持続的な地域農業を確立するには、法人化を進めることも一つの手段であり、そのことから、「地域営農体制の構築」は、重要な取組であると考えられる。法人設立に向け、組合員と丁寧な話し合いを行い、組合員の思いを形に	<ul style="list-style-type: none">今年度は法人化に向けた具体的な話し合いを進めているが、引き続き、地域内でしっかりと合意形成できるような話し合いの場づくりを行いたい。また、農地の利用方法や高収益作物を含めた転作作物の品目選定や試作など、経営シミュレーションを行いながら、法人の経営内容について具体的な検討を進め、今年度末の事業計画案の作成に向けて支援していく。プロジェクト課題完了後はフォローアップが必要と考えている。町やJA等関

		<p>していく進め方は非常に良い進め方であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、策定を進めている地域計画を策定後、計画を推進していく上でのモデルとなる取組と思うので、引き続きの支援願いたい。また、法人を設立することが目的ではなく、なぜ法人化なのかを地域の皆さんとしっかり共有し、その意義を引き継いでいくことも重要だと考える。 ・幅広い意見集約のための検討会メンバーのチーム分けや、ワークショップの活用により、地域営農の将来ビジョンや法人化計画策定に地域の合意形成が図られた様子がうかがえる。今後も法人設立後の経営支援等に助言、指導を願いたい。 	<p>係機関と連携して法人設立や経営安定化を進めていきたい。</p>
<p>検討項目 No. 2 「加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立」</p>	4. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城の中山間地で作ることをウリにできないか。 ・初年度の取組ということで興味深く聞かせていただいた。さつまいもはおいしいのでぜひ宮城で生産が進むよう来年度の取組にも期待する。 ・加美地域ならではのさつまいも栽培がされていることを伺い、良かった。 ・産地化に取組むにあたっては、新たな生産者の確保に取組む必要があり、既に栽培技術を確立している先進事例から、栽培方法の「見える化」、それに向けた技術指導の取組は評価する。今後は、マニュアルのブラッシュアップと、新たに取組む生産者の掘り起こしに期待する。 ・導入1年目の作物のため、JAも生産者も手探り状態であったものの、生育は順調に推移しており、管内の農業者の関心も高いことから、生産技術の確立に向けた更なる支援、指導に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は現地検討会等を開催し、管内で先進的に取り組む生産者の栽培管理ノウハウを共有するとともに、新規作付者相互の取組も共有することで、各生産者の次作に向けた課題を把握することができるよう、活動を進めている。それらを踏まえ、新規作付者が新たに取組んでみて感じた課題も盛り込んだ、より実践的なマニュアル作成を進め、加美地域ならではのさつまいも栽培が実践できるよう、引き続き、関係機関と連携しながら技術指導していく。
<p>検討項目 No. 3 「中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上」</p>	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の観光施設とのコラボ企画などできないか。 ・総販売額が増加し始めているということで、少しずつ成果が出ていると感じた。また直売所が盛り上がってほしいと思う。 ・土産センターは需要が多いと思うので、研修を重ね、より良い商品が増えていくとよいと思う。若手の方々が育っていき、年配者との関係も強化されていくとよいと思う。 ・若手生産者の役員参入、「プラビラボ」の活動と、若者の参画は非常に良い取組であると評価する。また、集客力の向上を目指すためには、1事業者では限界があり、他事業者との連携を密にする必要があることから、例えば、近隣の観光施設をはじめ、大崎市の道の駅などとの連携も効果があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の品質向上に向け、技術向上に向けた研修を定期的で開催することとしている。 ・今年度の対象法人の総会で若手理事が誕生し、事業計画にも「次世代を見据えた組織体制作りの構築」が盛り込まれるなど、新たな動きが出てきたことも踏まえ、経営陣の意向を丁寧に聞き取りながら、経営継承に向けた行程の検討を進めたい。 ・来客数が減少する冬期間のイベントの

		<ul style="list-style-type: none"> ・本案件については非常に難しいプロジェクト課題と認識している。次世代継承といった運営課題については、関係機関や地域住民等にも理解を求め、幅広い方々の研修会やイベント参加を働きかけてはいかがか。 	<p>開催に向け近隣施設との連携に向けた話し合いが始まっており、若手生産者を中心としたイベントの開催と併せて、より効果のある集客活動に向け、引き続き、助言していきたい。</p>
<p>検討項目 No. 4 「子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立」について</p>	<p>4. 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営（エサの消費者）と相助けるところまで目指してほしい。 ・飼料代が高止まりの中、国産トウモロコシが飼料として生産されているというところが非常に良いと思った。年々収量も増加していて今後に期待できる。輪作体系もしっかりしていて良い。 ・関係団体との連携がしっかりしていて、確実な成果があげられていて素晴らしいと思う。ほ場も見ることでもでき、その成果を実感でき良かった。 ・生産性の向上と省力化に向け、子実用トウモロコシ、大豆、水田直播体制の3年3輪作のみならず、麦作を加えての3年4輪作を目指している取組で、市としても機械導入支援など、JA古川と連携している。令和6年度はJA古川としての実証事業の最終年度であり、今後、本事業が本格化する中、普及センターにおいても、プロジェクト課題に位置づけ、栽培技術の確立に向け取組んでいることから、新たに取り組む経営体が、生産レベルの高いところから開始できるよう、これまでの取組の「見える化」と情報の提供をお願いする。さらには、県、市、JA等が一体となり、それぞれの役割のもと、更なる普及に向けて、今後も連携し取り組むことに期待する。 ・子実用とうもろこし、大豆とも生育は良好であり、別の機会に拝見した水稲乾田直播の生育も良好であったことから、輪作技術体系はほぼ確立されているものと評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子実用とうもろこし、大豆、水稲は全体的に生育が良好だが、雑草対策や収量確保に関する課題等を整理し、3年3作体系の推進方策を検討するため、引き続き、関係機関と連携しながら、検討を重ねる。 ・今後は輪作技術体系の確立とともに、経営的な面でのメリットも併せて示せるよう対象法人の聞き取りなどを行っていく。